

(株)国際技術コンサルタント 正会員 ○鎌木隆太

近畿大学理工学部 正会員 三星昭宏

(株)都市交通計画研究所 正会員 田中清久

### 1. 研究の背景と目的

近年、住宅用地取得の困難による居住地域の郊外化、また、自動車保有世帯数の増加等の理由により、鉄道駅までの車による送迎交通(=キス&ライド)利用が急増している。こうした背景により、キス&ライド利用において様々な利用者意識が考えられる。そこで、本研究は今後キス&ライドを快適に行うための改善策を探るための基礎的研究としてアンケート調査を実施し、キス&ライドの状況を把握した上で送迎者の利用者意識構造について調査集計結果よりみるものである。

### 2. アンケート調査概要

アンケート調査はJR阪和線と泉府中駅前において平成8年11月13日(水)、始発(午前4時30分)から終電(翌午前0時30分)までの約20時間、送迎利用者を対象に配布し後日郵送にて回収した。配布692票に対し回収229票、回収率33.1%であった。質問項目は、対象者の属性、利用状況、送迎者の意識、被送迎者の意識についてである。

### 3. アンケート調査結果

(1)送迎状況 送迎者の男女構成比は、男性30.6%、女性69.4%となり女性が大きく上回った。被送迎者の男女構成比は、男性56.5%、女性43.5%となり差がなかった。送迎者から見た被送迎者との関係では、夫婦間が約半数を占め、子供が約4割となり親や兄弟を送迎するというのはあまりみられなかった。時間帯であるが、「送り」では7時台をピークに6～9時台までで85.7%にもなる。「迎え」では19～20時台と22時台のピークが2度あり、長い時間に渡って利用がある。頻度は、ほとんど毎日利用している人が最も多い。「送り」と「迎え」のクロス(表-1)をみると、共に同じ頻度というのがどの場合も最も多かった。

(2)送迎者の意識 送迎者の心理(図-1)をプラス的心理(楽しい、うれしい)とマイナス的心理(つらい、腹が立つ、面倒くさい)にて質問した。「楽しい」「うれしい」と感じている人は、共に半数を超え、「つらい」「腹が立つ」は約4割にしか過ぎない。だが、「面倒くさい」に関しては約7割もが感じている。これは、キス&ライドを手間がかかるものだと感じているからと考えられる。必要性は、92.2%の人が「必要」「時々必要」と感じている。しかし、今後の継続性では、「続けたい」「できれば続けたい」という人は半数に過ぎない。

表-1 「送り」と「迎え」の頻度クロス

|    |        | 迎え     |       |       |       |     |        | 計   |
|----|--------|--------|-------|-------|-------|-----|--------|-----|
|    |        | ほとんど毎日 | 週3～4回 | 週1～2回 | 月1～2回 | まれに | なしor不明 |     |
| 送り | ほとんど毎日 | 49     | 9     | 13    | 4     | 1   | 21     | 97  |
|    | 週3～4回  | 0      | 14    | 2     | 1     | 0   | 8      | 25  |
|    | 週1～2回  | 1      | 1     | 14    | 4     | 3   | 7      | 30  |
|    | 月1～2回  | 0      | 0     | 1     | 15    | 3   | 3      | 22  |
|    | まれに    | 0      | 2     | 2     | 3     | 13  | 4      | 24  |
|    | なしor不明 | 2      | 0     | 5     | 2     | 4   | 18     | 31  |
|    | 計      | 52     | 26    | 37    | 29    | 24  | 61     | 229 |

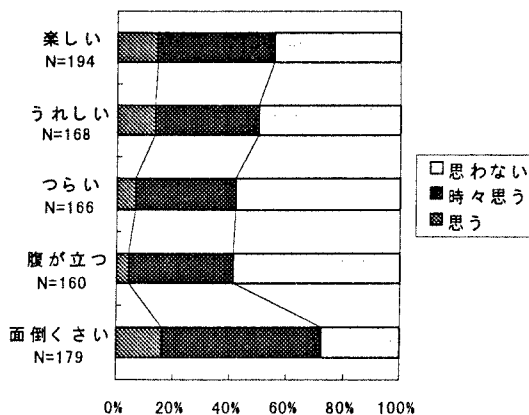


図-1 送迎者の心理

次に、プラス的心理とマイナス的心理の回答の重なりを見る。ここでの分類の定義として、プラス的心理、マイナス的心理それぞれで1つ以上“思う”とした人を■に示し、それぞれ1つ以上“思う”または“時々思う”とした人を□で示すと図-2のようになる。“思う”に限る場合、心理の重なりは4人(4%)と少なく矛盾はほとんどないようである。しかし、“思う”“時々思う”の2つに範囲を広げると、心理の重なりは92人(44%)と大変多くなる。“思う”単独の場合プラス的心理は38人(38%)であるが、“思う”“時々思う”で見ると34人(16.3%)と大きく減少する。

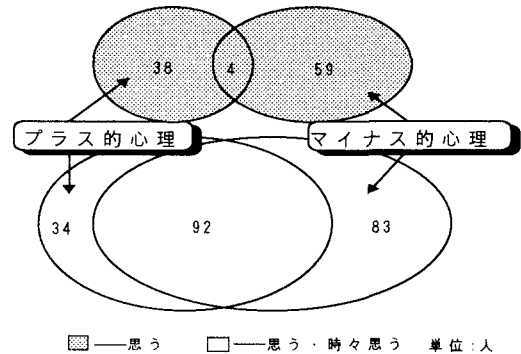


図-2 送迎者の心理の重なり

(3)被送迎者の意識 送迎してもらう理由で目立ったのは、バス関連では“本数が少ない”，自動車関連では“駅付近の駐車料金が安い”，自動二輪関連では“危険である”，自転車関連では“距離が遠い”，その他では“天候が悪い”“夜道が危険”であった。普段においてキス&ライドを利用している人の駅への理想のアクセス方法は、バスが34.2%，徒歩17.1%となっており、キス&ライドは23.9%と現実とはかなりの違いが見られる。キス&ライドは家族の手間になるので、できればさげたいと考えているのであろう。パーク&ライドは7.7%，自転車は9.4%と低かった。

#### 4. キス&ライドに対する意識構造について

今回のアンケート実施地域においてのキス&ライドに対する送迎者の意識構造について様々な角度から心理別特徴をまとめたものが表-2である。キス&ライド利用に対し、プラス的心理では、頻度が多く、キス&ライドを必要としており、今後も継続したいという傾向にあり、マイナス的心理では、距離が遠く、所要時間が長くなり、今後続けたくないというような状況の人ほどそのように感じているようである。

表-2 送迎者の心理別特徴

|          | プラス的心理   |            | マイナス的心理 |        |        |
|----------|----------|------------|---------|--------|--------|
|          | 楽しい      | うれしい       | つらい     | 腹が立つ   | 面倒くさい  |
| 性別       | 女性       | 女性         | —       | —      | 女性     |
| 年齢       | 50歳代     | 20歳代, 50歳代 | 若年者層    | —      | 中年者層   |
| 被送迎者との関係 | 夫婦, 子供以外 | 夫婦, 子供以外   | —       | —      | 子供     |
| 駅までの距離   | 3～5km    | 3km以上      | 5km以上   | —      | 5km以上  |
| 所要時間     | 15分未満    | 10分未満      | 時間が長い   | 10～15分 | 5分以上   |
| 頻度       | 多い       | 比較的多い      | 多い      | 多い     | —      |
| 必要性      | 必要       | 必要         | —       | —      | —      |
| 今後の継続性   | 続けたい     | 続けたい       | 続けたくない  | 続けたくない | 続けたくない |

#### 5. まとめ

調査集計結果より、色々な角度から特徴をまとめると、送迎状況では、朝夕の通勤時間帯にピークがあり、毎日送迎している割合が高いようである。また、心理において“楽しい”という人の方が、“つらい”という人より割合が高かった。意識構造については、キス&ライドに対し、距離や必要性、今後の継続性といった点で大きな差がでたことなどが把握できた。本研究では意識の構造について送迎者の立場でしか考察を行っていない。よって、被送迎者に対しても心理状態を調査し、送迎者と被送迎者の意識の比較を行うこと。また、複数駅でのアンケート調査を実施し、分析することが今後の課題である。

(参考文献) 高岸節夫:“鉄道駅周辺でとらえた送迎交通の一特性”,土木学会第49回年次学術講演会,9月,1995